千葉県で見つかった地衣類の新種
キヨスミカワキノリ（Leptogium kiyosumiense）

・・・✍ 原田 浩/ 2020.04.

2017 年 6 月，日本地衣学会の学術誌ライケノロジー（Lichenology）に，千葉県産の地衣類の新種を発表しました．採集地に因んで，学名をレプトギウム　キヨスミエンセ（Leptogium kiyosumiense），和名をキヨスミカワキノリと名付けました．

発見されたのは，東京大学千葉演習林，いわゆる清澄山と呼ばれる地域です．風通しが良く，しかも湿潤そうな場所で，クスノキの幹に着生していました．ウメノキゴケのように葉状（ようじょう）の地衣体は，直径１０ｃｍ程度にはなります．このような大型種の地衣類の新種が国内で見つかることは，最近では珍しくなりました．

ウメノキゴケと違って黒っぽいのは，ラン藻のネンジュモ属を共生藻にしているためです．表面にはしわが多く，裂芽と呼ばれる粒状の構造も付きます．周辺ではやや青みを帯びます．裏側はトメンタと呼ばれる，白っぽい毛のようなもので覆われます．ところどころに白っぽく縁どられた円盤状のものが写真でも確認できますが，これは子器（しき）と呼ばれる，胞子を作る器官です．白い細かな毛のような菌糸で覆われています．

その後，本種とみられる個体が見つかっていますが，いずれも房総丘陵の周辺です．大気汚染に最も敏感な部類に入るものと思われますので，見つけたらぜひ大切にしてください．

掲載論文：　Harada H./ 2017/ Leptogium kiyosumiense sp. nov. (lichenized Ascomycota, Collemataceae), a new species of the Mallotium-group from Chiba-ken, central Japan/ / Lichenology 16(1): 23-30.

調査研究事業：　地域研究課題「房総の地衣類誌」・重点研究課題「房総丘陵の自然―過去，現在，未来―：植物学」